

11 備前市文化財保存活用地域計画【岡山県】

【計画期間】 令和3～12年度（10年間）

【面積】 約258km²

【人口】 約3.2万人



推進体制

| | |
|--------------------|---|
| 備前市 (主管課) | ○教育委員会 文化振興課 文化財係・備前市歴史民俗資料館・備前市加子浦歴史文化館・備前市吉永美術館・備前市埋蔵文化財管理センター |
| 備前市 (関係課) | ○市長公室 企画課・危機管理課 ○市民生活部 市民協働課・公共交通課 ○産業部 農政水産課・産業振興課・文化観光課・備前焼振興課・都市住宅課 ○建設部 建設課 ○教育部 学校教育課・社会教育課・公民館活動課 |
| 協議会等 | ○備前市歴史文化総合活用推進協議会 ○備前市文化財保護審議会 ○備前市史跡備前陶器窯跡整備委員会 |
| 市内関係 機関 | ○備前観光協会 ○備前商工会議所 ○備前市観光ボランティアガイド協会 ○備前郷土史研究会 ○備前民俗調査委員会 |
| 県やその 他関係機 関等 | ○岡山県教育庁 文化財課 ○教育遺産世界遺産登録推進協議会 水戸市、足利市、日田市 他 |

指定等文化財件数一覧

| | 有形文化財 | | | | | | | | 民俗文化財 | | 記念物 | | 文化的景観 | 計 | | | |
|------|-------|-------|-------|---------|---------|-----|----|------------|-------|-------|-----|-----|-------|----|----|----|-------|
| | 建造物 | 美術工芸品 | 無形文化財 | 有形民俗文化財 | 無形民俗文化財 | 選跡 | 名勝 | 動物・植物・地質鉱物 | | | | | | | | | |
| 国指定 | 7 | - | - | 1 | - | 1 | - | - | - | 1(1) | - | - | - | 14 | | | |
| 県指定 | 3 | - | 2 | 4 | 6 | - | - | 1 | 1 | 1(7) | 1 | 1 | 2 | - | 23 | | |
| 市指定 | 13 | 7 | 4 | 4 | 6 | 3 | 1 | 1 | 5 | 1(7) | - | 4 | 22 | 3 | 8 | - | 82 |
| 登録有形 | 2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 2 |
| 指定等計 | 25 | 7 | 6 | 9 | 12 | 4 | 1 | 2 | 6 | 3(15) | 1 | 5 | 28 | 3 | 9 | - | 121 |
| 未指定 | 208 | 708 | 326 | 267 | 133 | 229 | 34 | 75 | 14 | 367 | 11 | 286 | 466 | 18 | 62 | 10 | 3,214 |

指定等文化財は、121件
未指定文化財は3,214件把握

歴史文化の特徴

山や川、海、平野などの地勢から交通・流通の拠点

備前市の地勢は、片上港や日生諸島などの海運、陸路の山陽道沿いの各宿場町の陸路、急峻な山塊へ寺院や山城など交通の拠点、岡山県東部における備前焼の生産・柵原の鉄鉱石や耐火煉瓦の集散の拠点として栄えてきた。

恵まれた海から生み出される海産物を生かした食文化

瀬戸内海の海の幸と山の幸を生かし、カキオコ（カキ入りお好み焼き）やこうこ寿しといった郷土料理や加工製品などの豊かな食文化が各地区で育まれている。

社会で生きる基本能力を身に着け、地域のまとめ役を育てるという学びの伝統が現代まで受け継がれている地域

閑谷学校は、世界最古の庶民のための公立学校と言われており、池田光政が村や地域のリーダーたちを養成する目的で設置した。その学びの伝統は、現代まで脈々と受け継がれている。

備前焼を礎に発展してきた産業構造

伊部で生産が開始された備前焼は、各時代の多数の窯跡があり、今でも窯の煙突など特徴的な景観がみられる。備前焼の生産技術は、耐火煉瓦産業へも応用され現代でも市内の基幹産業となっている。

映画のロケ地にもなり多数の文学者を輩出している地域

自然豊かで特徴的な景観を持つ備前市は、正宗白鳥、藤原審爾や柴田錬三郎など多数の文学者を輩出。三石・吉永地域をはじめとして映画のロケ地となっている。

文化資源（歴史文化）の保存・活用に関する課題

調査研究・把握に関する課題

- 特定の分野での基礎的な調査
- 地域ごとの調査のバラツキ
- 未調査の分野の調査
- 調査・研究成果の総合的な整理 等

保存に関する課題

- 文化資源の有機的関連付け不足による指定物件のみの限定的な保存
- 指定物件の維持管理費の増大

活用に関する課題

- 拠点施設の整備不足や文化資源の活用が不十分による観光基盤の脆弱さ
- 自立的・継続的な地域の取り組み

ひとづくり・しくみに関する課題

- 少子高齢化・人口不足による担い手不足
- 地域に住む人々の文化資源への関心の低下
- 専門職員の計画的な採用、適正な人材育成

文化財の保存・活用に関する基本方針

方針1（調査研究・発信）

- 現在までの各分野の調査もとの、未調査・調査付属分野の調査による文化資源の把握・更新

方針2（保存管理）

- 制度の活用や地域の人々との連携により、文化資源の長期的で効果的な保存や環境整備を進める

方針3（活用）

- 地域の人々が地域の歴史文化を体感できるような場の創出による、主体的、継続的な文化資源の保存・活用
- 多種多様な歴史文化資産の情報発信

方針4（ひとづくり・しくみ）

- 地域及び学校教育、社会教育等との連携による歴史文化の担い手確保・育成を多角的に進める
- 文化資源の保存活用のための体制整備

文化財の保存・活用に関する重点措置

【方針1】 **【重点①】 古文書の調査・活用**

日本遺産の構成資産の一つである「延原家文書」などの市内に現存する古文書の所在調査及び内容確認をその翻刻と公開・活用の方法について検討していく。



- 取組主体：専門家、備前市
- 計画期間：R3～9年

【方針3】 **【重点②】 周遊ルート等の設定・整備**

備前市内に多くの観光客が訪れ、滞在時間が長くなるよう閑谷学校、備前焼、日生の海産物が周遊できるよう、その魅力に触れ学ぶことができる周遊ルートを設定する。周遊ルートのパンフレットを作るなど、市内文化資源を活用した観光基盤の整備を進めていく。



- 取組主体：市民、団体、専門家、備前市
- 計画期間：R6～12年

【方針4】 **【重点③】 学校教育における郷土学習**

既に作成している「論語かるた」や「閑谷学校の紙しばい」などを活用し、児童・生徒が地域の文化資源に魅力を感じ、地域に対する愛着や誇り、文化資源の継承に繋がるような取り組みを進めていく。

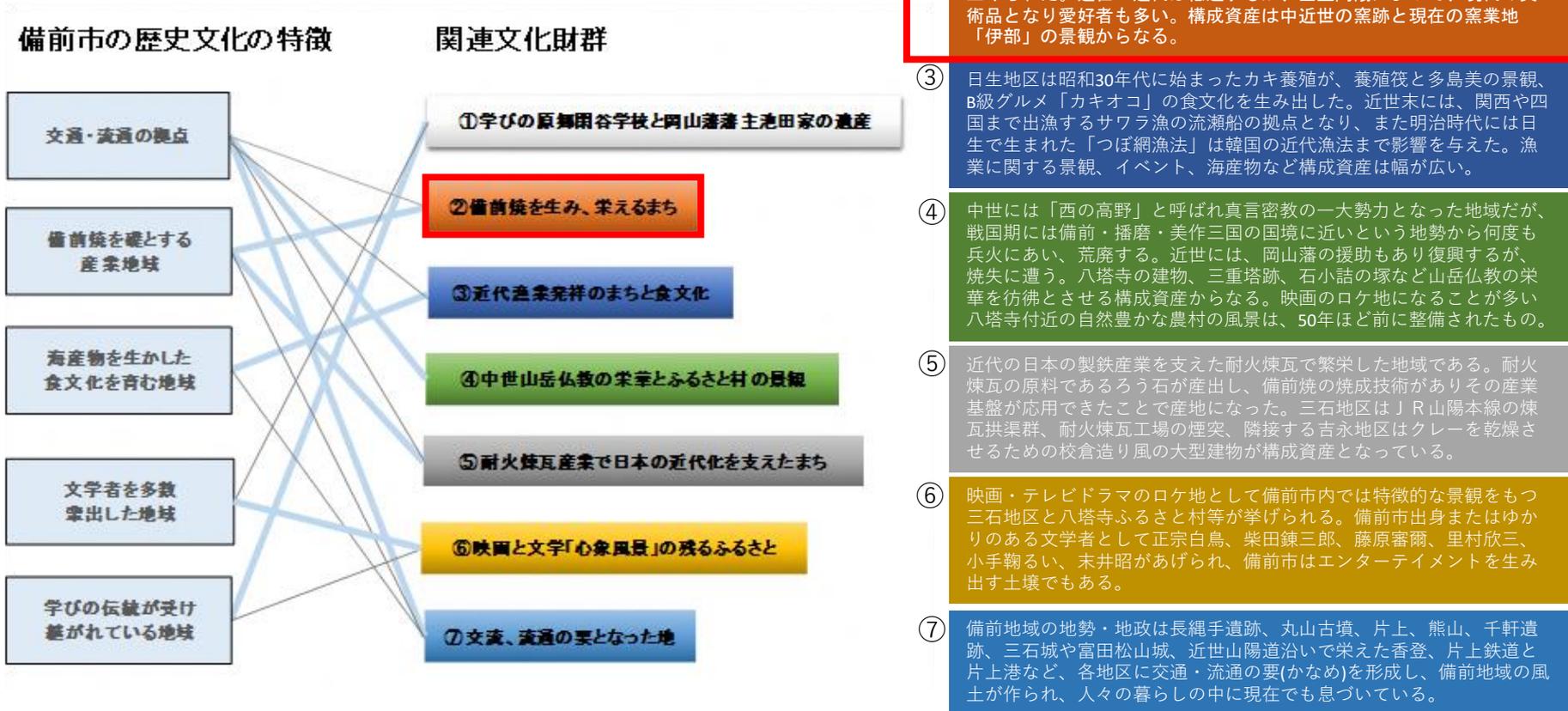


- 取組主体：市民、団体、専門家、備前市
- 計画期間：R3～12年

歴史文化資産の一体的・総合的な保存と活用 (関連文化財群)

備前市の関連文化財群

地域の多種多様な歴史文化資産を、歴史文化の特徴に基づくテーマやストーリーに沿って一定のまとまりとして設定。



① 旧閑谷学校講堂などの瓦を焼成した「閑谷焼窯跡」、学校経営のための学校田「井田跡」、近代になって存亡の危機にあった学校を維持した人々の関連史跡、閑谷学校の作事をした津田永忠が和意谷に造営した「岡山藩主池田家墓所」・「大多府漁港元禄防波堤」などからなる

② 中世後半、日本の中でも有数の窯業地であった備前、機能性の高い商品として西日本各地に流通し、織豊期には茶道具として為政者に取り上げられた。近世・近代は低迷するが、金重陶陽によって、現代の美術品となり愛好者も多い。構成資産は中近世の窯跡と現在の窯業地「伊部」の景観からなる。

③ 日生地区は昭和30年代に始まったカキ養殖が、養殖筏と多島美の景観、B級グルメ「カキオコ」の食文化を生み出した。近世末には、関西や四国まで出漁するサワラ漁の流瀬船の拠点となり、また明治時代には日生で生まれた「つぼ網漁法」は韓国の近代漁法まで影響を与えた。漁業に関する景観、イベント、海産物など構成資産は幅が広い。

④ 中世には「西の高野」と呼ばれ真言密教の一大勢力となった地域だが、戦国期には備前・播磨・美作三国の国境に近いという地勢から何度も兵火にあい、荒廃する。近世には、岡山藩の援助もあり復興するが、焼失に遭う。八塔寺の建物、三重塔跡、石小詰の塚など山岳仏教の栄華を彷彿とさせる構成資産からなる。映画のロケ地になることが多い八塔寺付近の自然豊かな農村の風景は、50年ほど前に整備されたもの。

⑤ 近代の日本の製鉄産業を支えた耐火煉瓦で繁栄した地域である。耐火煉瓦の原料であるろう石が産出し、備前焼の焼成技術がありその産業基盤が応用できたことで産地になった。三石地区はJ山陽本線の煉瓦拱渠群、耐火煉瓦工場の煙突、隣接する吉永地区はクレーを乾燥させるための校倉造り風的大型建物が構成資産となっている。

⑥ 映画・テレビドラマのロケ地として備前市内では特徴的な景観をもつ三石地区と八塔寺ふるさと村等が挙げられる。備前市出身またはゆかりのある文学者として正宗白鳥、柴田錬三郎、藤原審爾、里村欣三、小手鞠るい、末井昭があげられ、備前市はエンターテインメントを生み出す土壌でもある。

⑦ 備前地域の地勢・地政は長縄手遺跡、丸山古墳、片上、熊山、千軒遺跡、三石城や富田松山城、近世山陽道沿いで栄えた香登、片上鉄道と片上港など、各地区に交通・流通の要(かなめ)を形成し、備前地域の風土が作られ、人々の暮らしの中に現在でも息づいている。

関連文化財群② 備前焼を生み、栄えるまち

中世後半、日本の中でも有数の窯業地であった備前、機能性の高い商品として西日本各地に流通し、織豊期には茶道具として為政者に採り上げられた。近世・近代は低迷するが、金重陶陽によって、現代の美術工芸品となり愛好者も多い。構成資産は中近世の窯跡と現代の窯跡と現在の窯業地「伊部」の景観からなる。

課題

窯場がある伊部地区の面的な観光、長期滞在できるまちになっていないこと、地域の成り立ちや関連史跡への関心が希薄であること。

方針

- ・これまで実施してきた中世備前焼総合調査事業の成果をまとめ、保護すべき窯跡群の位置づけなど次の段階の事業に生かしていく。
- ・近代以降の備前焼陶工・窯元の調査・現代作家の活動状況の把握を実施し、連携を図る準備を行う。

措置

・備前焼の陶工・窯元の調査

近代以降の備前焼陶工・窯元の調査、現代作家の活動状況の把握を行う。

- 取組主体：行政、専門家、団体
- 計画期間：R3～12年度

・伝統技術の実態把握調査

竹筆、ろう石加工技術など、未指定の伝統技術について、実態把握の調査を実施する。

- 取組主体：行政、専門家、団体
- 計画期間：R10～12年度

・備前歴史フォーラムの開催

フォーラムで備前焼に関する情報発信を行う。

- 取組主体：行政、専門家、市民、団体
- 計画期間：R3～12年度



不老山と山陽新幹線



備前焼窯跡



伊部の町並み

